協力会ニュースレター Newsletter

No.41
2026.07

岐阜大学協力会

事務局／岐阜大学産学官連携推進部門内
〒501-1193 岐阜市柳戸１番１
TEL.058-293-3187　FAX.058-293-2032　E-mail ccr-jimu@t.gifu-u.ac.jp

MAKE NEW STANDARDS. 東海国立大学機構　岐阜大学

１　理事会および総会開催報告

2026 年５月 29 日（金）「じゅうろくプラザ」において岐阜大学協力会の理事会ならびに総会を開催。岐阜大学協力会会長・岡本知彦様には理事会、総会ともご挨拶をしていただき、その後議案について説明・審議がなされ承認を受けました。

〇第１号議案：令和７年度事業報告および決算報告について
〇第２号議案：令和８年度事業計画および予算について
〇第３号議案：令和８年度役員について

協力会会長　岡本知彦
株式会社ナベヤ
代表取締役社長

第１号議案については、14 の事業計画の結果について報告。出前セミナーが２件しか応募が無かった事、８研究会を予定していた技術交流研究会支援が７研究会になった事、２件を予定していた特別会員向け R&D 向上促進支援への応募が無かった事、協力会会員企業への訪問が予定８６社中５５社となった事を報告。その他の計画については概ね計画通り遂行出来たことを報告。

また、決算については、次年度繰越金が前年よりも 95 万円程度増加した事を報告。事業計画に沿った支出が出来なかった事が大きな要因ではあるものの、大学側と交渉をして交流会経費を抑えた事、リニューアルした協力会 HP への項目追加ならびに改修が無かったため予算を使う必要が無かった事も要因であることを説明。

第２号議案については、14 の事業計画を説明。11/27（金）に予定している特別講演会には県内のスタートアップ企業の代表に講演をお願いする予定である事、R&D 向上促進支援については前年度の実績を踏まえ、正会員２社、特別会員１社とすることを報告。出前セミナー、技術交流研究会支援については前年度通り。

予算については、協力会事務局員の人件費（時給）を少しアップしたい旨説明。その他支援以外の支出を見直し、全体としては前年度をやや下回る予算案であるが、収入予算を越えてしまうため更なる節約もしていくことを説明。

第３号議案については、２年任期の２年目という事もあり、異動等による変更以外は特に無いことを報告。

【総会における岡本会長挨拶主旨】

協力会では会員拡大やスタートアップ企業との連携を進めており、企業会員数も 176 社まで増加。大学と企業との共同研究も着実に増えており、共同研究費の大幅な増加にも協力会として貢献が出来ていると思う。こうした産官学連携は地域の発展や新たな事業創出に不可欠であると考えており、今後も岐阜大

学および岐阜県の発展に貢献できるよう取り組んでいくので、引き続きご支援とご協力をお願いしたい。

2 記念講演会

講師として東大阪市に本社がある DG TAKANO の代表取締役社長・高野雅彰様を迎え「なぜ？節水ノズルがサウジアラビアに！」という演題で講演を開催。高野氏は現在サウジアラビアを拠点に活動をされており、「日本技術連合」の構想のもと、SDGs の考えを念頭において世界の課題解決に取り組まれている。

本講演において高野社長は、自社の取り組みを紹介しながら、技術開発や事業の成果は「前提の置き方」によって大きく変わってくるという考え方について講演をされました。

【高野氏講演要旨】

講演前半では、自社の技術開発と製品について説明。代表的な製品である節水ノズルは、水の流れを制御することで少ない水量でも十分な洗浄力を実現するものであり、従来の「水量＝洗浄力」という考え方とは異なる仕組みを採用。この技術により水の使用量を大幅に削減することが可能となり、コスト削減だけでなく環境負荷の低減にも寄与するものとなった。また、電力を使わずに水流を変化させる構造を持つ点も特徴の一つであり、既存設備にそのまま取り付けられるなど、導入が容易であることを説明。

(株)DG TAKANO
代表取締役社長
高野雅彰氏

こうした製品開発の背景として、従来の業界常識を前提としない発想が重要であるとし、一般的には水量を増やすことで洗浄力を高めるという考え方が採用されてきたが、その前提を見直し、水の使い方そのものを変えることで同様以上の効果を生み出すというアプローチをとった。このように、開発においては技術そのものだけでなく、その出発点となる考え方によって方向性が大きく左右されることを自身の経験から導いた。

講演後半では、「前提の設計」というテーマについてより詳しい説明が行われた。物事の結果は個々の努力や技術力だけで決まるものではなく、どのような前提条件を置いているかによって導かれるものであり、したがって、結果を変えたい場合には、その手前にある前提を見直す必要があるという考え方が示された。

多くの企業は、既存の市場や業界構造、競争環境を前提として事業を展開している。その中で改善や効率化を図ることはできるものの、前提そのものが固定されているため、大きな差別化や飛躍的な成長にはつながりにくいという点を指摘。すなわち、与えられた条件の中で最適解を求めるのではなく、その条件自体を見直すことが必要である。具体的には、「どの市場で戦うか」「どの価値を提供するのか」「何を評価軸とするのか」といった上位の設計の重要性を強調し、既存の競争環境の中で優劣を競うのではなく、評価基準や価値の測り方を変えることで、新たな競争領域を形成することができる。このような前提の置き直しによって、同じ技術や資源であっても異なる結果が生まれる可能性がある。

また、「技術起点」と「課題起点」の違いについても説明。従来は自社の技術を出発点としてそれを応用する形で製品開発が行われることが多いが、その場合、用途や市場が後付けになりがちである。一方で、社会的な課題や解決すべき問題を起点とした場合、その課題に対して最適な手段として技術が選択されることになる。この順序の違いが、最終的に生み出される価値の質に影響を与える。

さらに、価値の定義についても言及があり、価値とは製品の機能そのものではなく、その結果として生じる効果であり、その効果をどの指標で評価するかが重要であると説明。例えば節水の分野においては、削減率や使用量といった数値によって効果が明確に示されるため、その指標を基準とした競争が成立する。

このように、どの指標で評価される領域に参入するかという点も前提の設計に含まれる。加えて、「どの土俵で戦うか」を決定することの重要性も強調。同じ製品や技術であっても、参入する市場や設定する評価軸によって競争構造は大きく変わる。したがって、既存の競争の枠組みに自らを当てはめるのではなく、自らにとって優位性が発揮される条件を設計することが必要である。

意思決定の考え方については、「実現可能な範囲から考えるのではなく、目的から逆算する」という方法が提示された。現実的な制約を前提にすると発想が限定されやすく、新しい価値の創出にはつながりにくい。一方で、達成すべき状態を最初に設定することで、その実現に必要な条件や手段を再構築することが可能になる。

また、組織や個人の行動においても前提は大きな影響を与えるとされ、日々の業務や意思決定の中で無意識に設定されている前提に気づくことの重要性が述べられた。同じ課題に対しても前提が異なれば取るべき行動は変わり、その積み重ねが最終的な成果の差として現れる。

講演のまとめとして、高野社長は、成果の違いは個々の能力の差ではなく、どのような前提のもとで考え、行動しているかの違いによって生じると述べた。したがって、より大きな成果を生み出すためには、既存の前提を前提とせず、それ自体を見直す視点を持つことが重要であると説明し、講演を締めくくった。

講演終了後の講評で、王副学長より「高野氏は世界全体を見据えた戦略家であり、本講演は日本社会の課題や成長戦略を考える上で非常に示唆に富む内容であった。日本企業連合軍として取り組み、全体最適の視点と社会変革が重要である。」とのコメントをいただき、高野氏への謝辞とした。

3 協力会フォーラム・交流会

じゅうろくプラザ 5F の大会議室にて開催。交流会に先立ち、協力会フォーラムとして技術交流研究会（7 研究会）、R＆D向上促進事業（2 件）、民間企業との共同研究促進事業（5 件）の成果発表を各担当の先生が実施。（発表内容は、下記の**協力会フォーラム発表者リスト**をご覧ください）

その後、岐阜大学・吉田和弘学長の乾杯の挨拶で交流会がスタート。参加者の方々には講演者・高野氏や成果発表をされた先生方ともゆっくりと話をしていただき、産学官の交流の必要性を理解していただきました。

【協力会フォーラム】

【交流会】

協力会フォーラム発表者リスト

項　目		テ　ー　マ	所　　属		役職	教員名
1	令和7年度 技術交流研究会	ぎふ保全生物学研究会	地域科学部		教授	向井 貴彦
2		岐阜大学コンクリート研究会	工学部	社会基盤工学科	教授	小林 孝一
3		岐阜地下水環境研究会	工学部	社会基盤工学科	教授	神谷 浩二
4		岐阜プラズマ産業創出研究会	工学部	機械工学科	教授	上坂 裕之
5		教科×日本語×ICT研究会	教育学部		教授	今井 亜湖
6		ぎふライチョウ保全研究会	応用生物科学部		教授	楠田 哲士
7		地域資源活用研究会	高等研究院	Coデザイン研究センター	准教授	森部 絢嗣
8	R&D向上支援	交通事故オープンデータを用いたバスの車外事故の分析	工学部	機械工学科	准教授	佐藤 惇哉
9		包装袋の熱シールの高機能化・高品質化技術研究	工学部	化学・生命工学科	助教	高橋 紳矢
10	令和7年度民間企業との共同研究促進事業	高機能ミトコンドリア製剤の糖尿病治療への応用	医学部	附属病院	助教	藤澤 太郎
11		チロシナーゼを利用したバイオプラスチック開発に向けて	工学部	化学・生命工学科	准教授	大野 敏
12		新規な発光性イオン液体の創製とその特性評価	工学部	化学・生命工学科	助教	水野 翔太
13		食品の冷凍過程における熱流計測の有効性検証	応用生物科学部	食農生命科学科	准教授	今泉 鉄平
14		食酢の発酵スターターとなる難培養酢酸菌のスクリーニング	応用生物科学部	食農生命科学科	助教	中川 香澄

【告知】

次年度の総会は 2027（令和９）年５ 月28 日（金）に、じゅうろくプラザで開催予定です。